

2016年9月29日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 真(電話 055-954-3666)

CBP501に関する学会発表について

当社は、2016年10月20日から23日に米国ボストンで開催される癌免疫及び免疫治療(Tumor Immunology and Immunotherapy)に関する米国癌研究学会(AACR)主催のカンファレンスにおいて、当社が創出し開発中の抗癌剤候補化合物CBP501についてポスター発表を実施することとなりましたので、お知らせします。

【ポスター発表】

“CBP501 induces tumor immunogenic cell death and CD8 T cell infiltration into tumor in combination with platinum, thereby increasing the efficacy of immune checkpoint inhibitors against tumors in mice.”

(参考訳)

CBP501はプラチナ系抗癌剤との併用によって癌細胞の免疫原性細胞死とCD8 T細胞の癌組織への浸潤を促進し、免疫チェックポイント阻害剤のマウス腫瘍に対する効果を増強する。

これに先立ちAACRのウェブサイトでは、タイトルおよび著者名のみが公表されています。

(http://www.aacr.org/Documents/TII16_PosterA_web.pdf A37)

CBP501が担癌マウスへの免疫チェックポイント抗体の効果を増強することは、既に昨年秋、米国ボストン行われた学会で報告しました。

(参照: 2015年10月27日適時開示『CBP501新知見に関する学会発表について』)

今回は、我々の作業仮説どおり、CBP501が標的の異なる複数の免疫チェックポイント抗体の作用を同様に増強することを示すとともに、癌細胞を殺傷するCD8 T細胞の癌の微小環境への浸潤が実際に増えていることなど、癌微小環境の解析結果を発表するものです。

AACRの癌免疫及び免疫治療に関するカンファレンスは、癌免疫領域の急速な発展の成果を基礎・臨床の研究者コミュニティに迅速かつ広範にシェアし相互のフィードバックを強める目的でAACRが始めたもので、今年が第6回となります。 <http://www.aacr.org/Meetings/Pages/MeetingDetail.aspx?EventItemID=92>

本件による当期業績への直接の影響はありませんが、現在当社が準備を進めているCBP501・プラチナ系抗癌剤・免疫系抗癌剤の併用による臨床試験を実施する根拠となる重要な知見であり、CBP501提携パートナー獲得活動も含めた当社の中期的な展開に大きく寄与するものであると考えています。

以上